陳　情　文　書　表（令和８年９月３０日定例会提出）

陳情第４７号

へずまりゅう氏の被災地における支援活動について

令和８年９月２４日受理

陳情者　●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

志　間　麻　美

私は、令和８年に発生した熊本地震において、地震発生直後から被災地に入り、炊き出し物資の支援など、被災者への支援活動を行ってくださった「へずまりゅう氏」について、被災者の一人として、また熊本県民の声をお伝えする立場として、陳情申し上げます。

地震直後の被災地では、水や食料などの生活に必要な物資が十分に行き渡らず、避難所においても水が不足し、限られた物資を取り合うような状況もありました。そのような厳しい状況の中、へずまりゅう氏は、飲料水を無制限で配布するなど、被災者の目線に立った支援を行ってくださいました。

また、食料が十分に届かず、１日にパン１個しか受け取ることができなかった被災者もいる中で、炊き出しを行い、温かい食事を提供してくださいました。温かい豚汁や白米などを口にすることで、空腹を満たすだけではなく、不安と悲しみの中にいた被災者が「もう一度頑張ろう」と思える力をもらいました。

実際に被災者からは、次のような声が数多く寄せられています。

・「大変な中、へずまさんのおかげで元気が出ました」
・「へずまさんのおかげで温かい豚汁が食べられました。忘れません」
・「白米を４日ぶりに食べました。とてもおいしかったです」
・「孫がとても喜びました」

これらはほんの一部であり、現在も多くの被災者から感謝の声が寄せられています。

被災地で実際に支援を受けた熊本県民、特に被災地区の住民にとって、地震直後の最も困難な時期に、現地へ足を運び、食料や水などを届けてくださったことは、決して忘れることのできない支援です。

私自身も、被災地で活動する中で、多くの被災者がへずまりゅう氏の支援によって救われ、励まされている姿を目にしてきました。

地震によって生活を失い、先の見えない不安を抱えていた被災者にとって、温かい食事や必要な物資だけではなく、「自分たちのことを気にかけてくれている人がいる」という気持ちそのものが、大きな支えになったと感じています。

この場をお借りして、被災地を支えてくださったへずまりゅう氏に、心より感謝申し上げます。

そして、これまでの活動に対する感謝と、被災者から寄せられている多くの声があることを、奈良市議会議長様にもお伝えしたく、本陳情書を提出いたします。

奈良の議員として、これからも日本をよりよい方向へ立て直すために御尽力くださいますことを願っております。

熊本県民、そして被災地の一人として、心より感謝申し上げるとともに、今後の御活躍を応援しております。

以上、陳情申し上げます。